# 千葉県立美術館活性化基本構想骨子（案）

令和5年3月　千葉県

# 千葉県立美術館活性化基本構想骨子（案）について

**1．現状分析**

1-1. 千葉県の地域特性

1-2. 開館（1974年）以来の環境の変化

1-3. 開館当時の理念「みる、かたる、つくる」は実現できたのか？

**2．目指すべき姿**

2-1. 活動方針

2-2. 7つの「C」～活動方針を具体化するためのキーワード～

**3．今後の取組**

3-1. 今後の取組の方向性

3-2. 運営体制の強化

3-3. 環境整備

参考　令和5年度の展示予定

開館当時の様子

# １．　現状分析

本県の地域特性を踏まえた上で、県立美術館をめぐる開館以来約５０年間の環境変化を整理し、開館当時に目指した姿を実現できているかを検証する。

# 1-1. 千葉県の地域特性

**地理**

- 首都圏に位置し、日本の空の表玄関である成田空港や国際拠点港湾である千葉港、東京湾の中央部を横断するアクアラインなどを有している。
- 京葉臨海コンビナートに代表される素材・エネルギー産業の集積や、全国屈指の産出額を誇る農林水産業など、バランスの取れた産業構造が形成されている。
- 貴重な干潟が残る東京湾や長大な砂浜が続く九十九里浜など、変化に富んだ姿を見せる海に囲まれ、利根川や江戸川、印旛沼や手賀沼など、多様な水辺空間を有するほか、房総丘陵には緑豊かな山々が連なるなど、恵まれた自然環境が広がり、県内各地域には、それぞれの特徴ある文化が息づく。

**歴史**

- **国名の由来**：四国の阿波から黒潮に乗ってやってきた人々が房総半島に上陸。良質な麻が育ったので、この地を総(麻の古語)の国とし、人々が住んだところを同じ安房と名づけたと伝えられている。
- **古代**：房総の地は、古来より海上交通が発達しており、奈良時代には、ヤマトタケル伝説が残る三浦半島～木更津を渡る海道が、都からの官道とされ、近い方が上総国、遠い方が下総国、房総半島の南端が安房国と呼ばれた。平安時代になると、上総国は、天皇の皇子が国司を務める大国「親王任国」に全国で三カ所だけ選ばれ、朝廷や京都・奈良の有名社寺、摂関家の荘園が置かれ、やがては東国武士団台頭の地盤となった。また、軍馬や駅馬を生産する牧も営まれ、その歴史は江戸時代まで続くこととなる。
- **中世**：源頼朝が鎌倉に幕府を開く際、千葉常胤は非常に貢献し、房総に大きな勢力を占めた。室町時代になると幕府と関東管領の争いが激化、北端の関宿周辺は、鬼怒川水系の要所として軍事的にも重要な地とる。
- **近世**：徳川家康が江戸に幕府を開くと、房総の地は、江戸の守りを固めるため、譜代大名や天領、旗本領が配され、細かく分割統治される。一方で、幕府のお膝元として、醤油や酒・味醂などの生産も盛んとなり「江戸の台所」と呼ばれ、経済的にも重要な地となった。
- **近代**：明治4年7月の廃藩置県を経て、150年前の明治6年6月15日に印旛県と木更津県が合併し、千葉県が誕生した。なお、江戸時代蘭学の先進地であった旧佐倉藩からは、浅井忠、香取秀真など芸術分野でも多くの人材を輩出した。

# 1-2. 開館（1974年）以来の環境の変化

## ローカル × 美術

### 美術館

・近隣美術館の開館
DIC川村記念美術館（1990年～）
佐倉市立美術館（1994年～）
千葉市美術館（1995年～）
ホキ美術館（2010年～）　など
・県立美術館のコレクションの充実
・団体展・県展参加者の固定化・高齢化

### 県内のアートの動向

・砂浜・里山などを活かした
アート作品の屋外展示
・常磐線沿線の若手作家の増加
・県内を拠点に活動する個人作家の増加

## 美術 × グローバル

### アートの拡大

・アートのイメージの拡大
映像、まんが、アニメ、ゲーム　など
・アートの社会への浸透
・障害者の参画
・アートを通じた地域振興策の展開
・創作技術の進化

### グローバル化

・交通網の整備による
海外との時間距離の短縮
・インバウンド需要と
多言語対応の必要性の
高まり

## ローカル × 社会

### 美術館周辺環境

・ポートパークやさんばし広場等の整備
・京葉線、モノレールの
開通によるアクセス向上
・周辺ホテル・レストランの増加
・周辺マンション・ファミリー層の
増加
・老人ホームの新設

### 人口動態変化

・少子高齢化
・都市の成長と人口増加
・地方部の人口減少

### 県内交通網の整備

・成田空港の開港
・京葉道路、東関道、
アクアライン等の
高速道路網の整備

## グローバル × 社会

### 価値観・ライフスタイルの多様化

・世界的な高齢化
・多様な人材の活用
・環境意識の高まり
・地球温暖化と
カーボンニュートラルの取組
・SDGｓの浸透
・感染症の大流行
・テロ・国際紛争・災害リスクの
高まり

### 社会のデジタル化・SNS

・誰でも表現できる場の拡大
・発信手法の多様化
・PC・スマートフォンの普及
・ネット環境の進化
・SNSの発展
・物理空間と仮想空間の融合

# 1-3. 開館当時の理念「みる、かたる、つくる」は実現できたのか

| | 開館時に目指した姿（設置構想） | 現実 |
|---|---|---|
| みる | **〇郷土における先人の偉大な作品に直接ふれる機会の提供**<br>• 本県の生んだ優れた芸術家等の作品を中心に、美術館資料の収集活動を行い、展示活動を通じ芸術家の生いたち、作品の鑑賞により本県文化の振興の基盤とする<br>S46 千葉県立美術館設置構想 | • 近代洋画を中心に、千葉出身作家の作品の収集・研究が進んだが、アートの概念の拡大に伴う新たな県民ニーズには応えられていない。 |
| かたる | **〇造形美術の鑑賞を通した美術愛好の気風の醸成、県民芸術文化向上への寄与**<br>• 美術の普及センターとして<br>講演会、研修会、映画会、談話会等を実施するとともに利用者の質問や相談にも応じ積極的に美術の普及と振典の拠点とする<br>S52 県立美術館協議会答申<br>• 交流センターとして<br>美術館友の会、美術団体、サークル等に活動の美の広場を提供し、相互の連絡と協力を促進し自主的交流を図るとともにボランテア活動と美術の大衆化の拠点とする<br>S52 県立美術館協議会答申 | • 展覧会関連の講座は充実しているが、学芸員が美術への興味・関心の状況に応じ、幅広い対象に向けて語り伝える役割を十分発揮できていない。<br>• 鑑賞にあたっての作品解説の多様化に対応できていない（アート・カフェ、YouTube、対話型鑑賞等）。<br>• 美術団体の利用やボランティア活動は進んだが、団体相互の交流や美術の大衆化の拠点は実現していない。 |
| つくる | **〇造形美術の創作を通した美術愛好の気風の醸成、県民芸術文化向上への寄与**<br>• 県民のアトリエとして<br>美術の実技教室や講座を開催し、自ら作る喜びと楽しさを味えるアトリエとし、また、団体やサークル等にも開放し、県民に親しまれる創造の拠点とする<br>S52 県立美術館協議会答申 | • 実技講座のメニュー数は充実しているが、参加者は美術に関心を持つ高齢者に固定化されている。<br>• 開館以来、実技講座やワークショップの内容をアップデートできていない。<br>• アトリエを開放しておらず、創造の拠点は実現できていない。 |

※千葉県臨海公園全体計画の核としての機能と効用を十分考慮する必要があり、開かれた美術館の完成を急ぐべきである。　S52 県立美術館協議会答申

# ２．　目指すべき姿

　開館当時の設置趣旨を踏まえ、環境変化に対応した新たな活動方針を策定するとともに、方針を具体化するためのキーワードを設定する。

# 2-1. 活動方針

**千葉県立美術館設置構想　設置の趣旨**

**本県文化の伝統を正しく理解し、その基盤の上に新たな文化を創造していく**

**～美術館職員のグループワークで出た意見～**

Chiba

房総の近代美術を中心とする
コレクションの研究成果で世界を驚かせたい。

Challenge

50年間の蓄積を踏まえて
新しいことに思い切って挑戦したい。

Chiba

収集の柱をしっかり作って
コレクションを集めて活用したい。

Citizen
Connect
Communicate
Collaborate

県民や地域など
さまざまな主体につながり、
伝え合いたい。

Change

県民に新たな価値観を提示することで、
県民の世界の見え方を変えたい。

（例）
・県外・国外から新たな要素を採り込むことで、千葉の文化に刺激を与える
・千葉ならではの自然・文化に即して活動しているアーティストの発掘・紹介
・県外・国外のアーティストの千葉への招聘
・アーティスト、デザイナーのハブとしての美術館
・コレクションの新しい価値・魅力の発信
・アートを核に、ショップやレストランの充実による多様な楽しみの提供

**活動方針**

**千葉の文化的蓄積を踏まえて**
**新たなアートシーンを創造する**

（例）
・房総の豊かな緑、海という地理的な特徴によって育まれた多様な文化
・江戸・東京に近い保養地として多くの文化人が滞在
・佐倉藩での蘭学の称揚
・利根川の舟運、野田の醤油産業等での経済発展に伴う文化的土壌の形成

Pride

県民が誇りに思い、学芸員自身も誇りに思える
世界に通用する美術館を作りたい。
心豊かな生活を実現するアートの力を県民が実感している

# 2-2.　7つの「C」～活動方針を具体化するためのキーワード～

| キーワード | 内容 |
|---|---|
| Chiba (Collection)<br>千葉（コレクション） | 浅井忠の画業の顕彰、金工作品の調査研究、<br>アート界の新たな動向も見据えた収集方針の打ち立てなど<br> <br>浅井忠像 |
| Change<br>変える | アーティストとの対話をうむインタラクティブな展示、<br>房総の近代美術と現代アートのコラボレーションなど<br> <br>山下＋小林展 |
| Challenge<br>挑戦する | 県内外、国内外のアートシーンの最先端の紹介、<br>ファインアートの文脈でのポップカルチャーの紹介など<br> <br>ロッカクアヤコ　滞在制作 |
| Citizen<br>県民 | 子供、女性、高齢者、障害者など、<br>さまざまな利用者モデルの設定など<br> <br>中学生対象ワークショップ |
| Connect<br>つながる | 様々な人々や大学と企業が関わりながらのアートの展開など<br> <br>障害者芸術支援 |
| Communicate<br>伝え合う | 幅広い対象に語り伝えるとともに、<br>アート・カフェや対話型鑑賞等への対応など<br> <br>森で木に触れるワークショップ |
| Collaborate<br>協同する | 千葉みなと地区に立地しているという<br>恵まれた環境を生かした周辺施設との連携など<br> <br>地域イベントへの出展 |

**会議での意見**

- **７つのCについて、もうひとひねり何か必要。**
- **対外的な打ち出しには、一言で分かるような工夫が必要。**

**再検討が必要**

**７つの「C」でPride（県民と学芸員自身が誇りに思える世界に通用する美術館）を実現する**

# ３．　今後の取組

○　今後策定する構想に基づき、５年程度を期間（概ね４期20年間を想定）とする具体的な運営計画を定める必要がある。

○　また、３－１から３－３に掲げる方向性などを踏まえ、必要な取組の着手する時期を精査し、これをもとに、それぞれの期における到達目標を設定する。

例：Ⅰ期　県内での知名度向上

Ⅱ期　国内での知名度向上・インフラの整備

Ⅲ期　インフラ整備・千葉発のアートシーンの展開

Ⅳ期　理想的な美術館の実現

# 3-1. 今後の取組の方向性

## 新たな出会い、発見の場

- 近代洋画など、これまで収集してきた作品を活用するとともに、千葉県出身の作家に特化することなく、現代美術など新しいアートの作品を充実させる。また、千葉を舞台にした映像作品等のイメージの活用を図る。 Chiba Collection
- いつ来ても新しいジャンル、作家、作品に出会う機会を作る。 Challenge Change
- 千葉文化資産や、音楽、海・食文化、デザイン等の県内文化とアートの融合などにより、本県ならではのアートシーンを創出し、美術への関心が薄い人も美術に出会う驚きと感動が得られる場を作る。 Chiba Collaborate
- 地域の核となるような施設として、レストランやショップの魅力を高める。 Collaborate
- 建物を活かした展示の工夫など、大髙正人建築の魅力を発信する。 Chiba

## 県内のアートプロジェクトの拠点

- 美術館にとどまらず、首都圏にありながら豊かな自然と歴史を有する本県の豊かな特色を活かし、野外空間での展示などにより本県ならではのアートな景観を創出する。 Chiba Challenge
- 県内若手アーティストや障害者、外国人、高齢者、学芸員など、様々な人々や大学と企業が関わりながらアートが展開され、かつ、それを誘発する機能を有するコミュニティを作る。 Citizen Connect
- アートを通じた社会課題解決への関心を提起する。 Change
- 大髙建築の特性やアクセシビリティを含め、建物の最適な利用方法を検討していく。 Chiba Citizen

## 次世代の感性の育成

- アートとの出会いにより、子どもたちの感性を豊かにはぐくむ。 Communicate
- 国内外の作家による滞在制作などを拡充し、県民の創作を刺激する作家や作品、情報と出会える場を創出する。 Collaborate
- 次世代を担う若手作家を磨き上げ、世界に羽ばたかせる。 Challenge
- 若手作家同士のコミュニティが生まれ、活動が活発に行われる場を創出する。 Communicate

# 3-2. 運営体制の強化

## 1. 人材確保

専門性を発揮できるよう、まずは館長等について美術館での豊富な実績を有する人材を外部から確保する。また、職員を将来の幹部候補として育成する。

さらに、多様化するニーズに対応するために、学芸員以外の職種を含めた人材の活用や、美術館活動の企画運営や資料の保存修復などについて外部機関等との連携を図る。

1. 専門職館長の招聘
2. 経験者採用
3. 学芸員以外の職種の活用（学芸員とその他の職種によるチーム編成）
4. 学芸員育成（採用、研修、交流人事）----- 未着手
5. 外部専門人材・専門事業者の活用

着手済み

## 2. 組織

性質が異なる普及や広報については機能を分化させるとともに、外部連携機能を強化する。さらに、アーカイブについては機能の在り方について検討する。

1. 普及専門セクションと広報専門セクションの設置
2. 地域連携セクションの設置

## 3. 事業予算

学芸員の研究に基づく企画展の開催や、時代変化に応じ、美術館としての特性を最大限発揮していくための施設整備には数か年を要することから、中長期的な計画に基づいた予算の確保を図る。

1. 運営計画を踏まえた予算の確保（３～５年先の展示についての債務負担行為の設定）
2. 年間展示予算の定額化
3. 施設整備（県有建物長寿命化計画との整合を図りながら予算確保）

# 3-3. 環境整備

**地域連携の強化**
ポートパーク連絡通路の整備

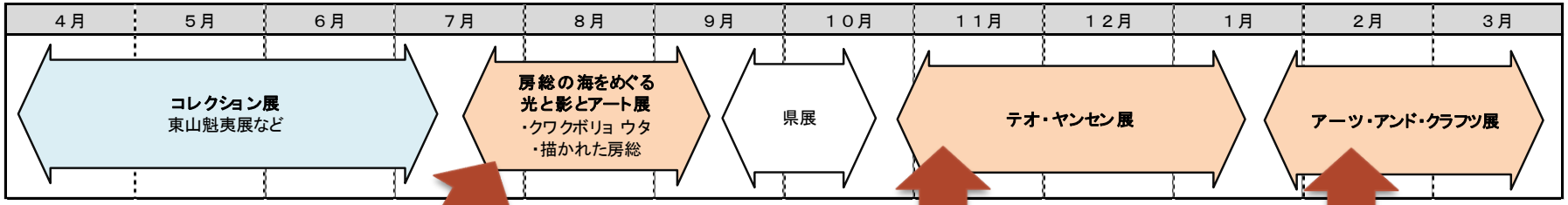
**館庭の有効活用**
レストラン周辺の芝生へのアート遊具等の設置

**地域活性化への参画**
さんばし広場のイベントへの参加

**会議での意見**

- 美術館がある場所のポテンシャルを最も活かす方法の検討が必要である。
- 地域の活性化に役立つ施設として、地域に貢献する必要がある。
- どのようにすれば来館者が楽しめる空間となるのか、検討すると良い。
- ランドスケープを含めて考える必要がある。

# 参考　令和５年度の展示予定




## 取組内容

**房総の海をめぐる**
**光と影とアート展**
***クワクボリョウタ***
◆「房総の海」をテーマに
制作したインスタレーションを展示
***描かれた房総***
◆ 房総の豊かな自然を描いた作品を
描かれた地の現在の写真と合わせて紹介

Chiba
Challenge

**テオ・ヤンセン展**
◆ 房総の豊かな自然を活かし
県内の砂浜で環境問題に
アートから向き合った作品を展示
◆東京2020大会等を通じて千葉県が
交流を深めてきたオランダと
アートで文化交流

Change

**アーツ・**
**アンド・クラフツ展**
◆ 約150年のデザインの歴史を
振り返り、美術館が誇る
金工コレクションなど
千葉の近代デザインの魅力を
再発見する
◆ 地元大学のデザイン研究室等と
連携・協力を予定

Connect

## 会議での意見

・千葉県の独自性を追求し、
千葉県の魅力をより引き出すような
方向性を検討できるのではないか。

・現代アートの質の変化を取り入れる
ような改革により、従来の陳列型の
美術館の在り方を一新するのも一案
である。

・千葉県の独自性を追求し、千葉県の魅力
をより引き出すような方向性を検討
できるのではないか。
・千葉県内で多様な人々が暮らす中で、
社会問題に向き合った現代美術などを
扱うことにより美術館としても貢献
できるのではないか。
・現代アートの質の変化を取り入れる
ような改革により、従来の陳列型の
美術館の在り方を一新するのも一案
である。

・美術館と「どこ」が「つながる」
かというビジョンが必要である。

・デザイン業界を下支えするための
展覧会の開催等を検討しても良い
のではないか。

**当面は外部の企画を活用しながら、５～１０年後までに、学芸員の研究成果に基づく企画展を自主企画できる体制を目指す。**